

Honda エコ マイレτζチャレンジ 2019 第11回 もてぎ大会



オフィシャルのしおり

開催日：2019/6/22（土）

■受付

■対応時間 6:30~7:30

場所: #35

A3版のエントリーチェックリスト

- 業務
1. 参加者の出欠確認
 2. 変更受付
 3. 提出物
 4. 保険費用の徴収
 5. 渡し封筒

■業務内容

3. 提出物

- | | |
|-------------------|-----------|
| ①受理書 | → 回収 |
| ②車検チェックリスト | → 記入確認後返却 |
| ③チームPR用紙 | → 回収 |
| ④変更届け（ドライバー・チーム員） | → あれば回収 |

4. 保険費用の徴収

レクレーション保険1名700円。エントリーリストの人数で変更がないか確認
マネージャー、ドライバー、メカニック分を徴収する
複数に登録名ある場合あり、1大会1名分で徴収

5. 渡す封筒

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| ①ゼッケン（3枚 大×2、小×1） | ②決勝用チェックリスト（ピンク色） |
| ③タイムスケジュール（練習走行、決勝スタート） | ④プログラム×3枚 |
| ⑤トランスポンダ | |
| ⑥参加賞ステッカー×4枚 | |

※受付終了後は

『決勝用チェックシートを持って、37ピットで燃料タンクを受取ってください』と案内する

■進行

- 業務 1. タイムスケジュールに基づく競技進行
- 2. スタート・ゴール車両管理、燃料微調整後の誘導

A3版のエントリーチェックリスト

■業務内容

1. タイムスケジュール、スタート予定時間表に基づき、各クラスのスタートを管理してください。
『スタート前待機エリア』へスタート10分前に車両を誘導・管理してください。
決勝用チェックリスト（測定値シール）の確認
『スタート前待機エリア』でのエンジン始動はOKです。
『スタート前待機エリア』には2名のチームスタッフが入場できます。
外部熱源によるエンジンを温めることはできません。ウォーマーのみはOKです。
2. 前車がスタートラインに着いたら、次の車両を直後に待機させてください
スタートは【練習走行：10秒間隔】【決勝：30秒間隔】
スタートフラッグは指で3秒前よりカウントし振りあげてください。
スタート指示後、10秒以内にスタートできない車両、もしくはレッドライン手前で停車した車両は『再スタートシール』をフロントのゼッケンに添付し、『スタート前待機エリア』後ろまで車両を下げる。作業はチームスタッフと行う。
※無線で再スタートチームのゼッケンを上げる
再スタート車両が準備ができ次第、燃料微調整を再度行い、『スタートエリア』へ誘導する。
再スタート可能な時間は、当該車両のスタート時間から10分以内です。

■燃料供給・計測①

■対応時間 6：50～

場所：#37

A3版のエントリーチェックリスト

- 業務
1. 燃料タンクの配布・回収
 2. 燃料密度の計測

■業務内容

【準備】ミーティング後、すぐに練習用燃料の準備を行う。おおよそトップアップラインまでガソリンを注いでおく。注入後、タンクにゴミが入っていないのかも確認しておくこと。

燃料の配布

【受付】参加者が受付後、ガソリン入りの燃料タンクを受け取りにくる。
燃料タンクを配布する場合はコックから漏れがないかを確認しエントラントに渡すこと。
決勝用チェックリストに参加者・オフィシャルがサインをし、燃料タンクを渡す。

【練習走行】参加者は練習走行が終わり、ガソリン入りのタンクを返却にくる。
練習走行のガソリンを捨て、決勝用の新たなガソリンを渡す。
練習走行分も燃料は供給する。

※練習前は調整で足りなくなったので補充の要求がある場合は応じてください。

【決勝】決勝用の重量計測を行う。（基準線まで厳密に。スタートでこの線で微調整を行う為）
決勝用チェックリストに参加者・オフィシャルがサインする。※全重量

【ゴール後】・決勝用チェックリストとタンクを受け取り
・重量計測を行いチェックリストに記載
・参加者、オフィシャルがサインする
・重量計測をして、上位入賞の可能性のあるものについては名前をつけて保管する
その他はガソリンをドラムに戻す

※決勝用チェックリストとは別に一覧リストで受け取りの管理も行う。

※燃料キャップは必ず締めて渡すこと。返却時もキャップを返却してもらう。計測時は外す。

※リタイヤの場合 → 決勝用チェックリスト、リタイヤ届けを受付に提出。燃料タンクは回収する。

■燃料供給・計測② 【燃料微調整】

- 業務
1. 決勝スタート前燃料補充（基準線まで注入）
 2. エンジン始動で燃料消費していることの確認

■業務内容

- ・ 2ピットで基準線までガソリン補充（大体でOK）
- ・ 10分前にスタート前待機エリアへ誘導（ピットパドック係）
- ・ ここからのエンジン暖機はNG
- ・ タンクが故意に冷やされていないかを確認
- ・ 燃料コックをONにする
- ・ エンジン始動（約10秒）し燃料が消費していることを確認。※これは必ず実行！重要です！
その後エンジンOFF
- ・ チューブ内に気泡がある場合は指ではじいて泡をとる
- ・ スポイトでガソリンを基準線まで正確に補充する

【再スタートの際の燃料微調整のやり直し】

- ・ スタートに失敗した車両は1度だけ再スタートが可能
- ・ スタートに失敗（10秒してもスタートできない）車両はチームスタッフによりスタート前待機エリア外に車両を移動（ピットでも可）
- ・ 再スタート」ステッカーにスタート時間を記入し再スタート時間の管理を行う（10分間）
- ・ この時、進行スタッフが『再スタート』ステッカーをフロントゼッケンに貼る
- ・ 出走可能となれば、燃料微調整を行い、優先的にスタートさせる

■燃料供給・計測③ 【ゴール後燃料計測の手順】

①上位入賞車両の判定/保管

- 当日の燃料密度から、約1000km/lと2000km/lの記録が出る消費量を計算し、サンプル燃料タンクを用意し、車検員に連絡をする。
(車検員はこのサンプルを元に当日の検査棒の目盛を作成)

■業務

1. ゴール後燃料タンク重量の計測
2. 上位入賞車両の燃料タンク保管
3. 参加者の誘導・監視

■業務内容

準備・計量器は燃料タンク立てをセットした状態で『0』となるようにしておく

- ①外したタンクを燃料計測係員が受け取り計測
- ②参加者に記録データの確認をしてもらい、チェックシートにサインをもらう
- ③燃料タンクは回収し、ガソリンをドラム缶へ戻す

※過去に正しく手順を実行するオフィシャルとしないオフィシャルがあり、参加者よりクレーム発生がありました。

改めて情報共有の意味も込めて、記載させていただきます。

特に、チューブ～燃料タンク間の気泡を抜く作業の監視が甘いとの指摘がありました。

タンクが沸騰してしまう車両もあり、冷めるのに時間が掛かりますが正しい手順の励行をお願いします。

■業務内容

- 競技で使用する燃料サンプルを抽出し、油温、外気温とJIS換算による燃料密度（換算比重）を計測する
- 計測値（何時、気温、燃料密度）を事務局へ報告する
ブリーフィングの際、競技長より発表する
計測時間はブリーフィング開始時間の30分前とし、
計時データの計算基準はブリーフィング開始時間の30分前のものを正とする
事前に計測テストを忘れないこと！
- 掲示板に計測値を貼り出す

比重計測⇒密度への換算

（比重は水の重さを1とした場合の比率）

密度＝重量／体積なので

温度等によって変化する体積で密度は変化する。

■燃費計算

走行距離 ÷ （消費燃料重量÷燃料密度）＝ 燃費

■燃料密度

燃料サンプルを抽出し、油温、外気温とJIS換算による燃料密度（換算比重）を計測する

■ゴール後車検

■ゴールライン通過後、燃料計測エリア

- ①チェッカー後、43～45ピット前で車両を停車させる。
- ②チームスタッフ3名により、40～42ピット前の燃料計測エリアまで車両を押し進める
- ③インジェクション車両は、イグニッションを10秒間ONにする。（燃料ポンプを作動させる）
- ④チューブ内の気泡がないことを確認し、マネージャーに燃料コックをOFFにしてもらう。
（ポンプはOFF）

※チューブ内に気泡がある場合、燃料タンク内に気泡をマネージャーが戻す。

- ⑤マネージャー及び代理人がチューブをカットし、燃料タンクを外す。（目視監視）

※チューブカットは燃料タンク破損することがあるので注意してください。

※燃料タンクについてゴミやチューブ残骸は参加者に取り除いてもらう。

※燃料コック下に残ったガソリンは「こより」で吸い取る。

■上位入賞車両の判定/保管

- ①燃料供給員が当日の燃料密度から、約1,000 km/lと2,000 km/lの記録が出る消費量を計算し、サンプル燃料タンクを用意して車検員に連絡をしてくる。
 - ②車検員はこのサンプルを元に当日の検査棒の目盛を作成する。
 - ③このサンプルを目安にし、燃料保管、車両保管を意識すること。
 - ④ゴール後は、治具を使いおおよその燃料消費を確認し、計測立会のオフィシャルにその旨を伝え、計時に計測結果を確認させる。
- ※あくまでもこのやりとりは、大声で行なわないようにしてください。

■ゴール後再車検

暫定結果発表後15分以内に抗議が上がった場合、最車検を行うことがある。
その場合チームスタッフがエンジンを分解作業する場合がある。（基本なし）

- ①キャブチャンバーより、燃料を抜き取る。サンプルとして保管
- ②車両構造申告書、車検チェックリストの内容に虚偽がないか確認する。
- ③燃料カット装置、インジェクションなどデバイス装置が装着されている場合、その動作が正常に作動しているかを検査。
- ④車両保管の解除は正式発表後とする

■業務内容

練習走行時

トランスポンダーの動作確認をし、システムの内容を把握しておくこと。

決勝前後

- ①チームがスタート前の燃料計測を行っているかどうかの確認をしてください。
- ②ゴールした後、周回数が基準に達しているか、基準タイムがクリアされているかを確認。
※（基準タイム過不足については競技長に必ず報告確認すること）
- ③周回数については、走行タイムと見比べ、本当に周回不足かどうか確認してリザルトを発行。
- ④クラスの上位記録が出た場合は、車両保管、燃料タンク保管するので各セクションに報告。
- ⑤過去の大会記録を把握しておくこと、大記録2,500km／1以上は競技長に報告。

■コース①

業務内容

【フラッグによる合図】

コース内を走行する競技車両に対して、ドライバーにコース状況を4種類の旗を使用して合図を送る。

（黄色、白色、青旗、赤旗）

特に、緊急を要する場合には旗を大きく振る、早く振るなどのアクションに変化を持たせ、ドライバーに明確な合図を送ること。

また、車高の低い車両が多いため、ドライバー目線に合わせるなど、ドライバーに伝わるよう合図を送る。

★コースで使用するフラッグの種類と意味

フラッグの意味は正確に把握しておくこと。万が一、異なる意味のフラッグを振ってしまうと重大なトラブルに繋がる恐れがあるので十分に注意すること。

【追い越し車両の対応】

スピードの差により、後方より追い越そうとする車両があるときは、前方を走行する車両に対して、「青旗」を振り、追い越し車両が接近している事を知らせ、ドライバーに注意を促す。集団でコーナーに入る前などの接触しそうな場面で対応。

【ストップ／リタイアの対応】

1. ストップ車両を発見次第、現場に急行する。スタッフが2名いる場合、1名は黄旗を振り、後続の車両にストップ車両がいる合図を送る。
2. ドライバーの状態を確認する。
※脱水症状や熱中症などによるストップであれば、すぐにドライバーを保護し管制に連絡する。
ドライバーに声を掛けて症状の状態を把握すること。
3. ドライバーが無事であれば、後続車両の妨げにならないよう、コース脇の安全な場所に、車両を移動してもらう。対応を判断できない場合は管制に連絡をとり指示を仰ぐこと。
4. ドライバーに「修理作業を行うか?」「リタイアするか?」の意志確認をする。

注) 停止車両の修理にスタッフは手を貸してはならない。

また、ドライバー以外のチーム員が車両の修理をした場合、その行為により失格となるので、コース員はチーム員に修理を手伝わせないように注意する。

工具の手渡しも禁止。

■コース②

■修理作業の場合

ドライバーは、ヘルメット装着したまま、コース脇の安全な位置のみで作業するよう伝える。

修理車両および再スタート車両ゼッケンの管制報告は不要です。

リタイヤが確定した車両のみ、ゼッケンを管制まで報告願います。

※燃料タンクは触ってはいけませんので出来る限り監視願います。

【トラブル車両への対応】

走行中のアクシデントや修理後の再スタート時に、やむを得ずカウルを外して走行する車両、トラブルでゼッケンナンバーが確認できなくなった車両、またオイル漏れ等のマシントラブル車両があった場合は、マシン形状、色、ドライバーの服装等、特徴を管制に報告すること。

※トランスポンダーがついていないものは走行させないこと。

【リタイア車両の回収】

サービスロードを使用し、45ピット脇を回収場所としてサービスロードを往復しています。

【落下物の回収】

エコマシンのタイヤはパンクしやすいため、コース上の落下物は出来る限り回収すること。

マシンからの落下物があった場合は管制にゼッケンを連絡し、回収物はレッカー車へ渡す。

※車両回収時の対応がクレームになっています！

車両を持ち上げて降ろす時に落下させたオフィシャルがいたようです。

学生はこの時のために少ない予算で制作・参加しています。

車両は大事に、大切に扱ってください！

■コース③

【規則違反行為の監視】

エンジンの推進力以外で走行している場合
足で地面を蹴る、スターターの動力で前進しているなど、
競技規則に違反となる行為を確認した場合には、車両のゼッケン番号と行為の内容・場所を
管制に報告すること。

【事故発生時の対応】

1. 最寄のスタッフは現場へ急行。黄旗を振り、後続車両に合図を送る。
(万が一の火災に備え、消火器を持ち、消火できる体制を取っておく)
2. ドライバーの容態を確認する。
※ドライバーを車両から降ろし、速やかに安全な場所へ誘導する。ドライバーが自力で動けない
または重傷の場合はあわせて報告する。
3. 競技車両は、コース脇の安全な場所へ移動し、二次災害を防止する。

●注意事項

- コース員はコース内で作業をする際、コース進行方向に対して、絶対に背を向けないこと。
- ポストのオフィシャルは、コース上で何のトラブルが起こるかわからないので、気を緩めず
常に冷静な判断と的確な行動をしてください。
- オイルが路面に付着した場合をはじめ、コース上に少しでも変化が生じている場合は、
すぐに管制に連絡をいれてください。
- コースを横切る時は、車両との間に十分な距離を取るとともに敏速に移動すること。
(車両の直前・直後の横断は行わないこと)
- タイヤの空気圧が高く、小さな部品でもパンクする恐れがあるため、
入念にコース清掃を行うこと。